

第2期総合戦略『鳥取県令和新時代創生戦略』(素案)について

新時代創造課

第1期鳥取県版総合戦略『鳥取県元気づくり総合戦略』の計画期間が本年度で終了するにあたり、このたび、第2期鳥取県版総合戦略『鳥取県令和新時代創生戦略』(仮称)(以下、「第2期戦略」)の素案を作成しました。

今後、議会及び経済団体や市町村など産官学金労言の代表者で構成する「鳥取創生チーム拡大会議」メンバー、パブリックコメントの実施等による御意見を踏まえて、3月末の策定を予定しています。

第2期戦略(計画期間: R2~R6 年度)の基本的な考え方

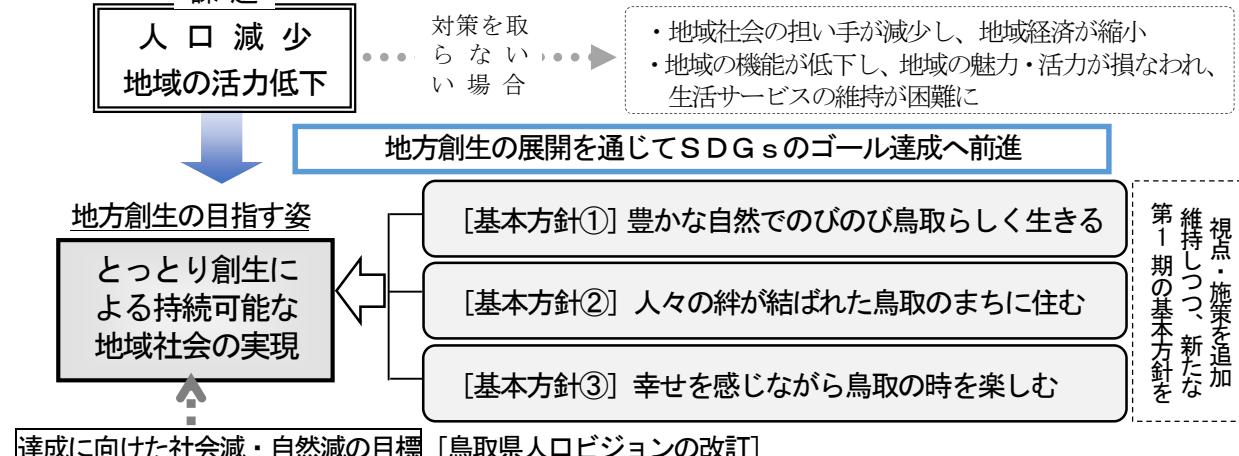
- 持続可能な社会づくりに向けた基本的な視点として新たにSDGsの概念を盛り込み、第2期戦略による地方創生の展開を通じて、SDGsのゴール達成を目指す。
- 関係人口など新しい人の流れの創出、Society5.0の推進などの新たな時代の流れを捉えた取組により、真の地方創生の実現を加速させる。

[第2期戦略において新規・拡充する主な取組]

中山間地域の維持・活性化、Society5.0の実現に向けた技術の活用、CO2削減など環境課題への対応、強靭な防災基盤の構築、健康寿命の延伸、スポーツ・健康まちづくり、多文化共生社会の実現 など

⑤ 第2期戦略(計画期間: R2~R6 年度)の概要

課題



達成に向けた社会減・自然減の目標 [鳥取県人口ビジョンの改訂]

国の長期ビジョンの目標変更を勘案し、転出超過解消と合計特殊出生率の目標達成年度の見直しを行うとともに、社会減・自然減対策に効果が高い若年層の転入者増を新たに目標設定し、消滅可能性都市(「若年女性(20~39歳)」が2010年から2040年にかけて50%以上減少する市町村)ゼロを目指す。

《社会減に対する目標》

- ・ 今後10年で(2029年までに)転入転出者数を均衡させる。
- ・ 2029年まで毎年、若年層の転入者数を500人上乗せる。[新規]

[国は地方・東京圏の転出入均衡2020年目標としていたが、2024年(5年後)に改訂したことを踏まえ、県目標達成年度も2029年(5年後)に見直し。]

《自然減に対する目標》

- ・ 2035年までに合計特殊出生率を県民の結婚・出産の希望が叶う水準(希望出生率1.95)まで引き上げる。
- ・ 国と同時期の2040年までに合計特殊出生率を人口置換水準(2.07)まで引き上げる。

[東京圏への転入超過は、地方の若年層の転出超過による出生率にも運動していることから、県目標達成年度も5年後に見直し、国の合計特殊出生率目標(2030年1.8、2040年2.07)と同時期に設定。]

⑥ 第2期戦略における主な新たな取組

基本方針	主な新たな取組	SDGsのゴールと関連する 政策・施策と関連する
豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～	観光・交流(新たなサイクリングルートの活用、MaaSによる二次交通の充実) 農林水産業(スマート農業の導入による生産性・収益性の向上) エコスタイル(プラスチックごみ・食品ロスの削減、リサイクルの推進、CO2削減の推進)	
人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む ～鳥取+住む～	出会い・子育て(高校生通学費助成・産後ケア無償化など経済的・身体的負担の軽減) 人財とっとり(ふるさと教育の視点を盛り込んだキャリア教育の充実、がん対策・認知症予防・健康づくりを実践しやすい環境整備) 支え愛(地域生活交通対策、障がい者の希望・適性に応じた就労推進、多文化共生社会の実現)	
幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ ～鳥取+rhythm～	移住・定住(ワーケーションの推進、受け入れ体制整備、関係案内所の設置等) 働く場(自由貿易拡大を踏まえた海外需要獲得、Society5.0の実現に向けた先端技術導入によるイノベーション創出、副業・兼業の推進) まちづくり(犯罪・交通事故防止、ダム放流避難対策、防災重点ため池の減災対策)	SDGsのゴールを明記

◎ 今後のスケジュール

1月20日	鳥取創生チーム拡大会議（素案の提示）
1/24~2/12	パブリックコメントの実施
2月下旬	最終案※の提示 ※目標数値や令和2年度事業等を追記
3月下旬	策定・公表

◎ 第2期総合戦略『鳥取県令和新時代創生戦略』の構成案

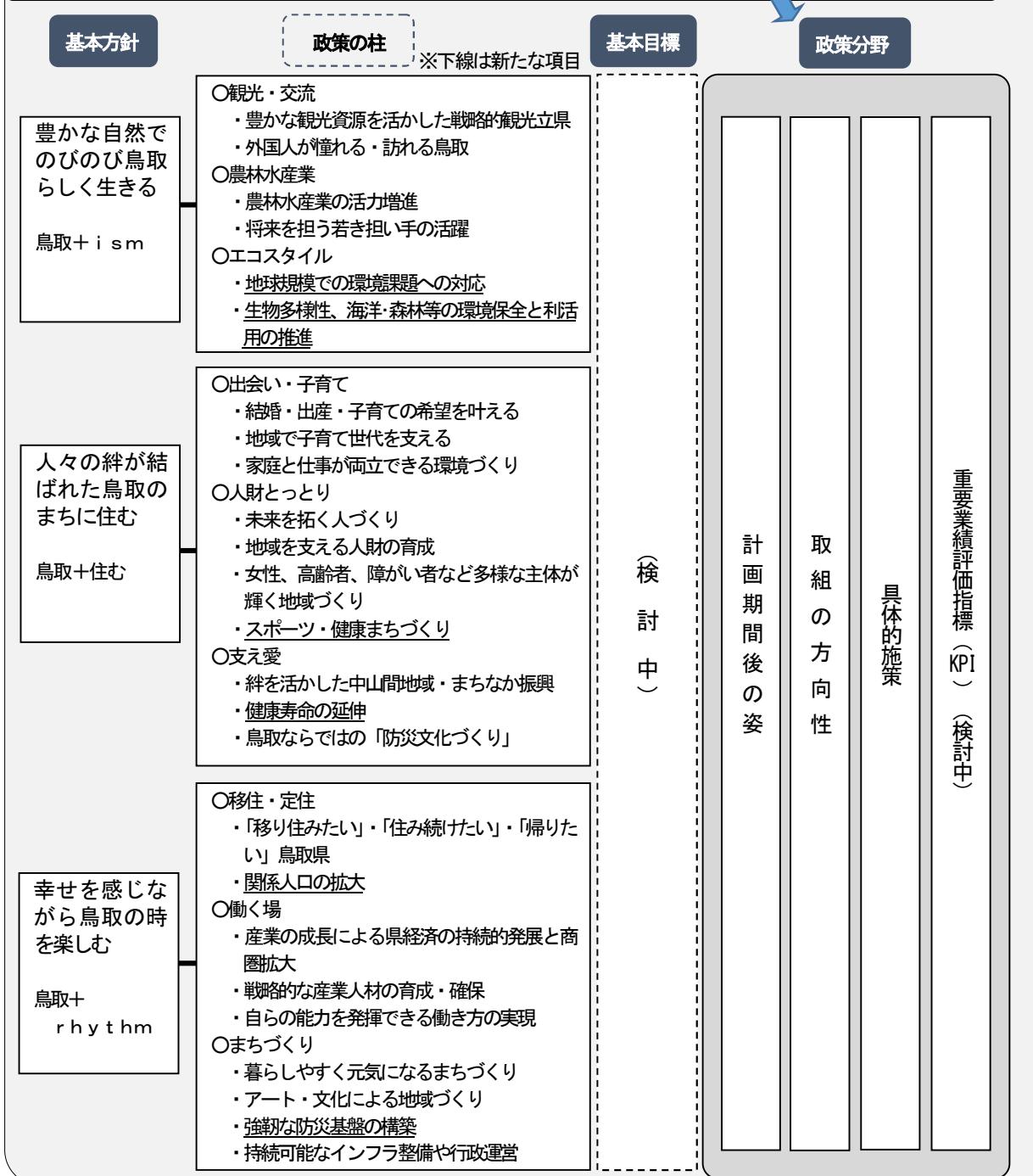
第1章 はじめに：戦略の策定趣旨を記載

第2章 鳥取県の地方創生に係る現状と第2期戦略の方向性

：これまで取り組んできた地方創生施策の成果・現状と第2期戦略の方向性について記載

第3章 鳥取発の地方創生：地方創生の取組を推進するための基本方針・基本目標等について記載

第4章 政策分野：具体的な取組の方向性や施策、重要業績指標（KPI）を記載



◎第2期戦略の主な見直しのポイント

【基本方針①】豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ~鳥取+ism~

[現状・課題]

- ✓ 国際定期便やチャーター便、クルーズ船や受入れ環境整備等により、外国人観光客は飛躍的に増加
 - ✓ 鳥取和牛や松葉ガニ「五輝星」などのブランド化や、「新甘泉」「星空舞」などオリジナル新品種による‘食のみやこ鳥取県’の進展
 - ✓ 食品ロスやプラスチックごみ、気候変動など、地域の魅力である自然環境への負荷が増大
- ⇒ 地域資源の更なる磨き上げやインバウンドの多角化、ブランド化等による商圈・販路の拡大、環境課題への対応による循環型社会の構築が重要

主な新たな取組

観光資源を活かした戦略的観光立県（新たなサイクリングルートの活用）、外国人が憧れる・訪れる鳥取（MaaSによる二次交通の充実、インバウンドビジネスによる新事業創出）、農林水産業の活力増進（スマート農業の導入による生産性・収益性の向上）、地球規模での環境課題への対応（プラスチックごみ・食品ロスの削減、リサイクルの推進、CO2削減の推進）

【基本方針②】人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む ~鳥取+住む~

[現状・課題]

- ✓ 「子育て王国とっとり」建国以降、小児医療費助成や保育料の無償化など、子育て環境づくりを推進してきたが、少子化の進行には歯止めがかかる（全国的な傾向）
 - ✓ 若者の県外転出が止まっておらず、今後の地域を支える人材の確保が課題に
 - ✓ 人生100年時代に向けた健康寿命の延伸や、東京オリンピックを契機としたスポーツの振興
 - ✓ 人口減少に伴い、地域内の経済縮小や空き家・空き地の増加などまちの賑わいが徐々に失われ、公共交通機関の縮小や買い物が不便に
 - ✓ 女性、高齢者、障がい者、外国人など、多様な人材が活躍できる環境づくり
- ⇒ 子育て支援の更なる充実により将来を担う子どもを地域で支えるとともに、子どもたちのふるさとを愛する心を育て、住み慣れた地域で元気に暮らし続け、多様な人が活躍し、輝ける地域づくりが重要

主な新たな取組

安心の出産・子育てを応援（高校生通学費助成・産後ケア無償化など経済的・身体的負担の軽減）、未来を拓く人づくり（ICT活用教育の推進、ふるさと教育の視点を盛り込んだキャリア教育の充実）、地域を支える人財の育成（高等学校を地域振興の核と捉えたニーズにこたえる学校づくり）、健康寿命の延伸（がん対策、認知症予防、健康づくりを実践しやすい環境整備）、スポーツ・健康まちづくり（地域活性化につながる生涯スポーツの振興、障がい者スポーツの充実）、絆を活かした中山間地域・まちなか振興（地域生活交通対策、空き家・空き地の利活用）、多様な主体が輝く地域づくり（障がい者の希望・適性に応じた就労推進、県民一人ひとりが尊重される社会づくり、多文化共生社会の実現）

【基本方針③】幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ ~鳥取+rhythm~

[現状・課題]

- ✓ 豊かな自然環境や子育て環境の整備等により、移住者は増加したが、若者の県外流出は止まらず
 - ✓ 積極的な企業誘致や成長産業分野の育成等により、製造品出荷額は着実に回復・増加
 - ✓ 生産年齢人口の減少により、人手不足が深刻化
 - ✓ 甚大な被害をもたらす大規模な自然災害が全国的に相次ぐ
- ⇒ グローバル化の急速な進展に対応した競争力の強化や産業の成長、企業の生産性向上に向けた県内企業へのAI・IoT等先端技術導入、人材確保の推進、持続可能な社会づくりに向けたインフラ整備や暮らしやすいまちづくりの推進が重要

主な新たな取組

関係人口の拡大（ワーケーションの推進、受け入れ体制整備、関係案内所の設置等）、産業の成長による県経済の持続的発展と商圈拡大（Society5.0の実現に向けた先端技術導入等によるイノベーション創出や生産性向上、自由貿易拡大を踏まえた海外需要獲得、インバウンド施策と連携した販路拡大や物流支援）、戦略的な産業人材の育成・確保（将来の成長拡大分野の職業教育機会の充実、外国人材の活躍、副業・兼業の推進）、自らの能力を発揮できる働き方の実現（働きやすい職場づくり・生産性向上に取り組むための基盤づくりの支援、県立ハローワークによる働きたい女性や高齢者と企業とのマッチング）、暮らしやすく元気になるまちづくり（犯罪・交通事故防止）、強靭な防災基盤の構築（ダム放流避難対策、防災重点ため池の減災対策）